

ドリル利用組合（北海道芽室町）

組織の概要

- R5 設立 ■ 構成員 計5名
- 機械の効率的な共同利用を行い生産性の増大を図ることを目的とする。
- 大豆栽培技術検討会のほか、耕うん同時播種技術及び可変施肥技術の導入など、新たな営農技術の導入に取り組む。



センシングデータに基づく可変施肥

生産概要

- 作付面積 (R4) 大豆 590a (R5) 大豆 584a ほかに小麦・長いも・キャベツ・人参など
- 4年輪作を行っている。肥料の分施、適切な防除を徹底している。
- 不耕起栽培を10年ほど前から行い、土壌表面の微生物層の活性化を実現し、より良い土づくりを行った。



セクションコントロール技術を使用

取組のポイント

< 生産性向上の推進 >

- 実施主体内で栽培技術検討会を開催。単収向上や面積拡大のため、適正輪作の在り方や栽培技術の情報共有を行った。

< 新たな営農技術の導入 >

- センシングデータに基づく可変施肥を行い、より効率的な施肥管理を行った。肥料散布機（ブロードキャスト）のセクションコントロール技術を使用し、従来施肥時に起きていた肥料の重複を最小限に抑え、適正な施肥量を守ることで、これまで低収量だった区画の収量の平均化による、トータルでの収量向上を実現。資材のコスト削減など経済的効果ももたらされた。
- 播種機の最新技術の導入で、種の重なりをなくし、より効率的な播種を適期に行った。



栽培技術検討会の実施

取組成果

< 大豆収量の増大の実現 >

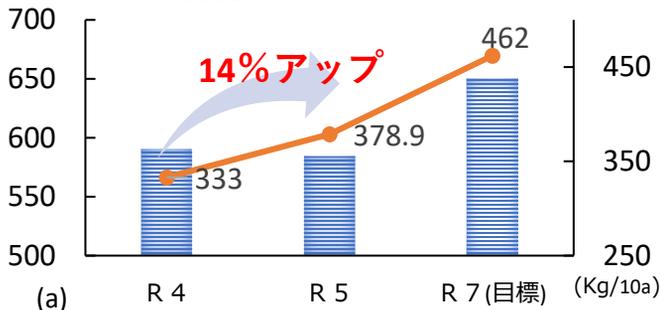
■ 単収増加

令和4年 令和5年
333.0kg/10a → 378.9kg/10a 14%アップ

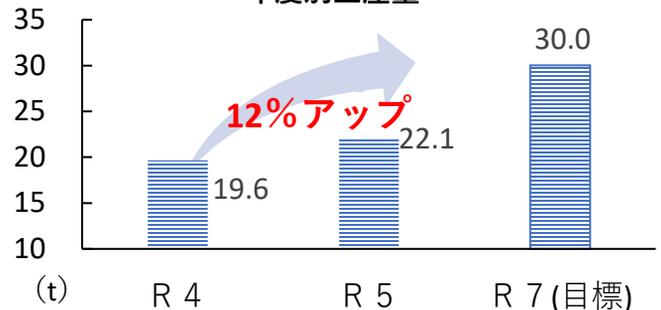
■ 生産量増加

令和4年 令和5年
19,647kg → 22,128kg 12%アップ

年度別単収及び面積



年度別生産量



■ 作付面積(a) ■ 単収(kg/10a)